



**MEDI+NET**

# 2017年9月期 決算説明会

2017年11月16日

株式会社メディネット(証券コード2370)

# 目次

## 1. 2017年9月期 トピックス

代表取締役 会長兼社長 木村 佳司

## 2. 2017年9月期 通期業績

取締役 管理本部長 宮本 宗

## 3. 研究開発の状況

執行役員 研究開発部長 池田 昇司

## 4. 2018年9月期 計画&ビジョン

代表取締役 会長兼社長 木村 佳司

# 2017年9月期 トピックス

## 2016年

- 10月31日 **茨城県立こども病院の細胞加工業務を受託**  
単体決算における子会社株式評価損および貸倒引当金繰入額の計上に関するお知らせ
- 11月4日 営業外費用の計上に関するお知らせ  
平成28年9月期連結業績予想の修正に関するお知らせ
- 11月7日 (訂正)「平成28年9月期連結業績予想の修正に関するお知らせ」の一部訂正について
- 11月17日 資本金及び資本準備金の額の減少並びに剰余金処分に関するお知らせ  
(訂正)「平成28年9月期決算短信〔日本基準〕(連結)」の一部訂正について
- 11月25日 役員異動に関するお知らせ
- 12月5日 **CAR-T細胞に関する研究成果が海外学術誌「Molecular Therapy-Oncolytics」に掲載されました**
- 12月19日 当社コーポレートサイトが2年連続で「最優秀サイト」に選定されました
- 12月26日 当社契約医療機関の瀬田クリニックグループと順天堂大学が国家戦略特区高度医療提供事業で連携

## 2017年

- 1月23日 当社コーポレートサイトが「Gomez IRサイトランキング2016」で銅賞獲得
- 2月2日 営業外収益の計上に関するお知らせ
- 2月13日 **高感度抗体検査法に関する特許が中国、シンガポール、台湾で成立**
- 5月9日 営業外収益、営業外費用及び特別損失の計上
- 5月22日 **一般財団法人健康医学協会と特定細胞加工物製造に関する契約を締結**  
**第三者割当による新株式、転換価額修正条項付第3回無担保転換社債型新株予約権付社債及び行使価額修正条項付第12回新株予約権の発行**
- 6月1日 第2回無担保転換社債型新株予約権付社債の繰上償還及び第10・11回新株予約権の取得及び消却並びにウィズ・パートナーズとの業務提携解消
- 6月19日 新株式、転換価額修正条項付第3回無担保転換社債型新株予約権付社債払込完了および行使価額修正条項付第12回新株予約権の発行に係る払込完了
- 7月10日 **高感度抗体検査法に関する特許が日本で成立**
- 9月27日 **免疫細胞加工技術の開発・製造委受託に関する契約締結**

# 医)大坪会関連グループと新規契約締結

## ◆ 医療法人社団大坪会は、

一般財団法人健康医学協会など、東京都内を中心に30を超える医療機関や施設で、検診から介護、治療といった幅広い医療を提供

➡ 一般財団法人 健康医学協会 粒子線がん相談クリニックで、  
免疫細胞治療を2017年7月14日開始



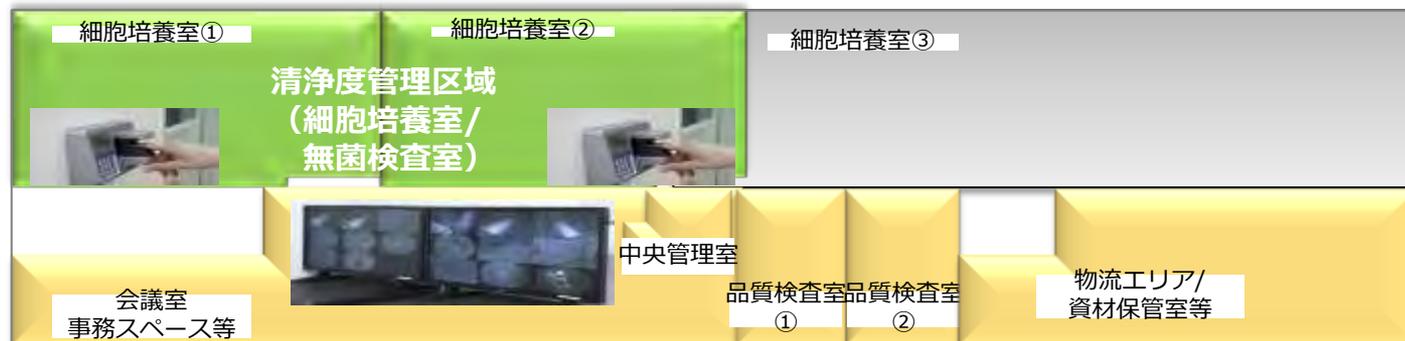
# (株)ジーンテクノサイエンスと 免疫細胞加工技術の開発・製造委受託契約締結

- ◆ ジーンテクノサイエンスは、学校法人順天堂と共同で  
研究開発を進めてきた免疫寛容を誘導する細胞加工技術について、  
臓器移植後の拒絶反応の抑制を目的とした再生医療等製品を開発



当該製品の開発を加速するため、メディネットに開発・製造を委託

《品川CPF概要図》



# バリューチェーン事業の受注実績(2017年9月期)



茨城県立**こども**病院

- ・細胞加工業務



九州大学  
先端医療イノベーションセンター

- ・細胞培養加工施設の  
運営管理業務
- ・治験薬製造支援業務

情報システム



金沢大学  
KANAZAWA  
UNIVERSITY

- ・施設運営管理業務



人材・人員教育



患者

再生・  
細胞医療の  
工程



品質検査



品質マネジメント  
システム



順天堂

JUNTENDO | JUNTENDO UNIVERSITY

- ・再生医療に関わる研究活動  
支援業務(労働者派遣)

- ・施設運営管理受託業務

- ・研究用分析作業の  
マニュアル作成業務

- ・再生医療を実施する大学法人に  
対する細胞加工技術者派遣
- ・再生医療を実施する大学からの  
受託研究
- ・再生医療ビジネスを検討している  
企業に対する支援業務

等

# バリューチェーン事業の受注実績①

## ● 2011年10月～

当社は、

金沢大学附属病院トランスレーショナルリサーチセンター  
細胞調製システム室の運営管理支援業務を受託



(イメージ写真)



(イメージ写真)

**国立大学法人金沢大学と  
運営管理支援業務請負継続**

# バリューチェーン事業の受注実績②



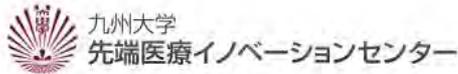
国立病院機構 九州がんセンターを中心に医師主導治験を実施

・ 治験名

病因ウイルス特異抗原を標的とした成人T細胞白血病既治療例への新規複合的ワクチン療法：抗CCR4抗体を併用した自家樹状細胞療法（第Ia/ Ib相試験）



九州大学に、治験薬（ATL-DC-101）製造を委託



**2015年、**  
当社がこれまでに提供する  
製造・品質管理体制が評価され、  
治験薬製造委託を決定

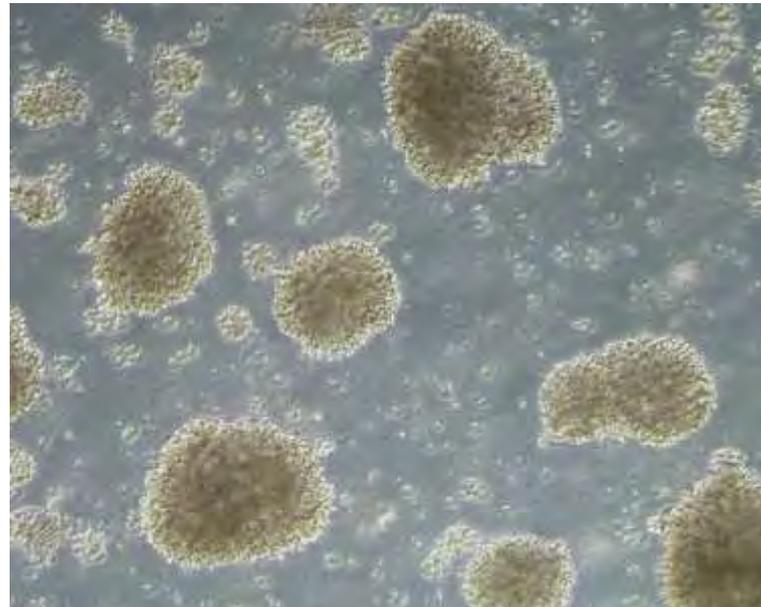


**国立大学法人九州大学と  
治験薬の製造支援業務継続**

# バリューチェーン事業の受注実績③



(イメージ)



【NK細胞(イメージ)】

## 【茨城県立こども病院 小児血液腫瘍科】

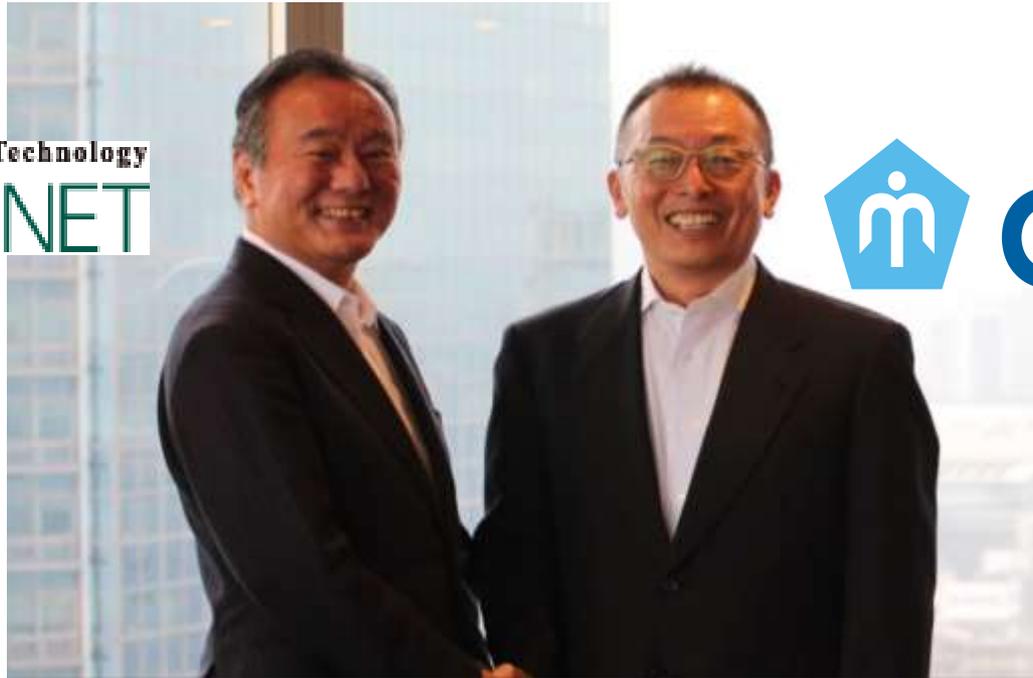
- 「小児がんの分子メカニズム解明及び治癒率向上に関する研究事業」により、NKリンパ球輸注細胞免疫療法の開発を目指す

**NK細胞の製造業務を受託  
小児領域へ、ビジネス領域を拡大**

(2016年10月開示)

# シミックホールディングス(株)とアライアンス強化

Emerging Bio-medical Technology  
**MEDI+NET**



 **CMIC**

株式会社メディネット  
木村 佳司 代表取締役

シミックホールディングス株式会社  
中村 和男 代表取締役

## 再生・細胞医療製品開発の ワンストップサービスに向け関係強化

業務提携 (2016年7月)

資本提携 (2017年6月)

# 資金調達(2017年6月1日取締役会決議)

## 【概要】

### ➤ 新株式

・割当先:	マッコーリー・バンク・リミテッド	525,000株
	シミックホールディングス(株)	847,400株
・資金調達額:		<b>161,943,200円</b>

### ➤ 転換価額修正条項付第3回無担保転換社債型新株予約権付社債

・割当先:	マッコーリー・バンク・リミテッド	2,290,000株*
・資金調達額:		<b>300,000,000円</b>

### ➤ 行使価額修正条項付第12回新株予約権

・割当先:	マッコーリー・バンク・リミテッド	12,500,000株*
・資金調達額:		<b>1,555,442,500円</b>

\* 上限転換価額はありません。潜在株式数は、当初転換価額で転換された場合における最大交付株式数です。

**行使完了** (2017年10月12日) **約20億円調達**

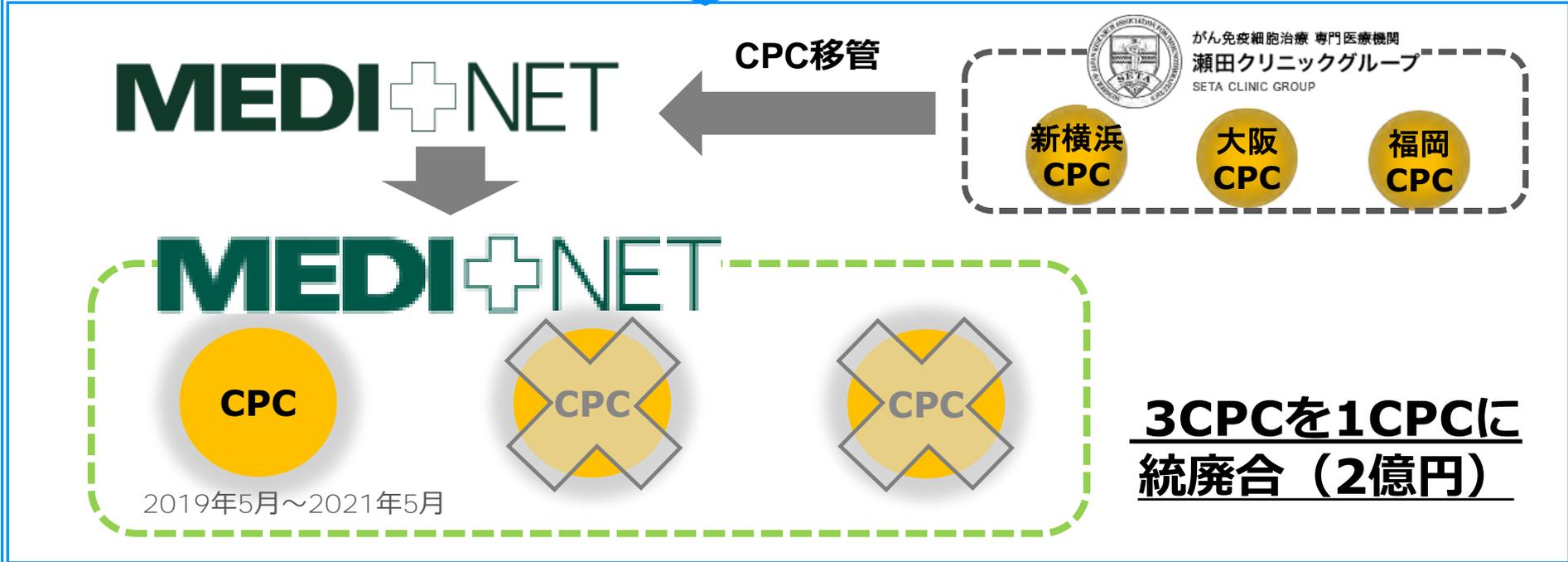
# 資金調達の使用

具体的な用途	金額 (百万円)	支出予定時期
<b>①ウイズ・ヘルスケア日本 2.0投資事業有限責任組合を割当先とする新株予約権の取得及び消却</b> 第10回新株予約権の取得資金 第11回新株予約権の取得資金 第2回新株予約権付社債の繰上償還資金	<b>87</b>  8 4 75	2017年6月 2017年6月 2017年6～12月
<b>②短期借入金返済資金</b>	<b>800</b>	2017年6～9月
<b>③細胞培養加工施設の統廃合に係る費用</b> 第1期分 (CPC1か所の廃止) 第2期分 (CPC1か所の廃止)	<b>200</b>  72 128	2019年5月～2021年5月
<b>④細胞培養加工施設の能力増強に係る設備投資資金</b>	<b>1,004</b>	2018年5月～2021年5月
<b>合計</b>	<b>2,091</b>	

払込金額の総額は、本新株予約権が当初行使価額で行使されたと仮定して算出された金額です。

# 《資金調達の使用》

# 細胞培養加工施設(CPC)の統廃合



# 細胞医療から再生医療へ、領域拡大

《資金調達の使途》

# 細胞培養加工施設の能力増強

## 1. 品川CPFの2期工事 : 840百万円 (2018年5月~2021年5月)



## 2. 新細胞培養加工施設 : 164百万円 (2018年5月~2021年5月)

# 受託拡大を見込み能力増強

# 目次

## 1. 2017年9月期 トピックス

代表取締役 会長兼社長 木村 佳司

## **2. 2017年9月期 通期業績**

**取締役 管理本部長 宮本 宗**

## 3. 研究開発の状況

執行役員 研究開発部長 池田 昇司

## 4. 2018年9月期 計画&ビジョン

代表取締役 会長兼社長 木村 佳司

# 2017年9月期決算報告 ポイント

## ● 外部環境

- ✓再生医療関連法が浸透。再生・細胞医療市場に追い風
- ✓免疫チェックポイント阻害剤の適応が拡大
- ✓免疫細胞治療に関する批判記事(メディア、SNS含)が多く露出

## ● 内部環境

- ✓営業活動を活発
  - 細胞加工受託やバリューチェーン事業の受注拡大を目指し営業体制強化
  - CDMOビジネス室新設



- 契約医療機関での患者減⇒「免疫細胞療法総合支援サービス」売上減
- 新規大型契約医療機関の治療開始遅延等で、「細胞加工業」売上計上なし
- 新規契約医療機関との契約数が計画未達
- 新規受注はあったものの、CDMO事業売上は未計上かつ計画未達
- 細胞医療製品事業において早期の収益化を目指しているが、その実現には、更に期間を要する見通しとなり、固定資産の一部を減損処理



計画未達

# 業績ハイライト

(単位：百万円)

	2016年9月期 連結会計年度 業績(A)	2017年9月期 連結会計年度 業績(B)	2017年9月期 通期連結 業績予想(C)	対前期比		対業績予想	
				増減額 (B)-(A)	増減率	増減額 (B)-(C)	増減率
売上高	1,909	1,704	2,250	(205)	-10.8%	(546)	-24.3%
営業利益	(1,681)	(1,801)	(1,967)	(120)	—	(166)	—
経常利益	(1,823)	(1,745)	(1,951)	77	—	(206)	—
親会社株主に帰属する 四半期純利益	(1,643)	(2,603)	(1,961)	(960)	—	(642)	—
設備投資	71 <sup>※1</sup>	40 <sup>※1</sup>	—	—	—	—	—
減価償却費	356	320	—	—	—	—	—

※1 設備投資は、有形固定資産のほか、無形固定資産のうちソフトウェアを含めています。  
2016年9月期の設備投資には、リース資産21百万円が含まれています。  
2017年9月期の設備投資には、リース資産30百万円が含まれています。

## 《ポイント》

- ✓ 「細胞加工業」「バリューチェーン事業」「CDMO事業」の3つのビジネス領域拡大に向けた活動を展開し、領域拡大が堅調
- ✓ 既存契約医療機関における患者数が減少。免疫細胞療法総合支援サービス売上減少
- ✓ 販売費及び一般管理費は2,570百万円（前期比28百万円増、1.1%増）

# 売上総利益、販売費及び一般管理費の内訳

(単位：百万円)	2016年9月期 連結累計期間 (A)	2017年9月期 連結累計期間 (B)	対前期比	
			増減額 (B)-(A)	増減率
売上総利益	860	769	(91)	-10.6%
販売費及び一般管理費	2,541	2,570	28	1.1%
研究開発費	603	612	9	1.5%
内、人件費	185	177		
販売費	457	508	51	11.3%
内、人件費	166	191		
一般管理費	1,481	1,449	(31)	-2.1%
内、人件費	464	425		

## 《ポイント》

- ✓ 研究開発費↑： 細胞医療製品の薬事承認取得による収益獲得に向け、細胞医療製品事業推進
- ✓ 販売費↑： 新たな事業展開に向けた営業強化のため、組織強化及び人材投入を図ったため

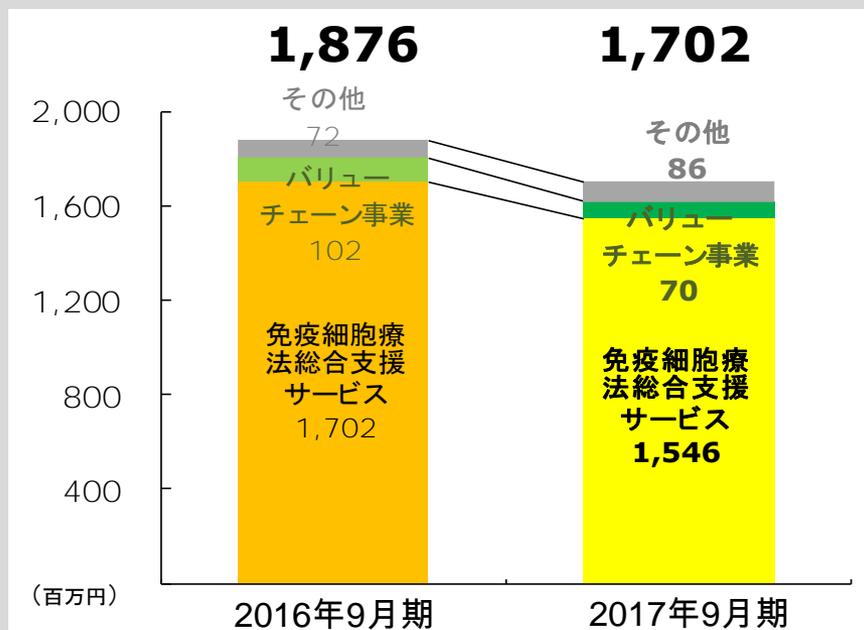
# セグメント別の売上高およびセグメント利益

(単位：百万円)	2016年9月期	2017年9月期				
	累計実績	累計実績	対前年同期		通期予想*	対予想進捗率*
			増減額	増減率		
細胞加工業	1,876	1,702	(174)	-9.3%	2,247	75.8%
細胞医療製品事業	32	1	(31)	-95.5%	3	43.8%
売上高合計	1,909	1,704	(205)	-10.8%	2,250	75.7%
細胞加工業	(374)	(462)	—	—	(327)	—
細胞医療製品事業	(653)	(707)	—	—	(910)	—
全社費用	(653)	(631)	—	—	(730)	—
セグメント利益合計	(1,681)	(1,801)	—	—	(1,967)	—

\* 連結業績予想は、2016年11月8日に公表

# 細胞加工業の売上高・利益

## 売上高



## セグメント利益



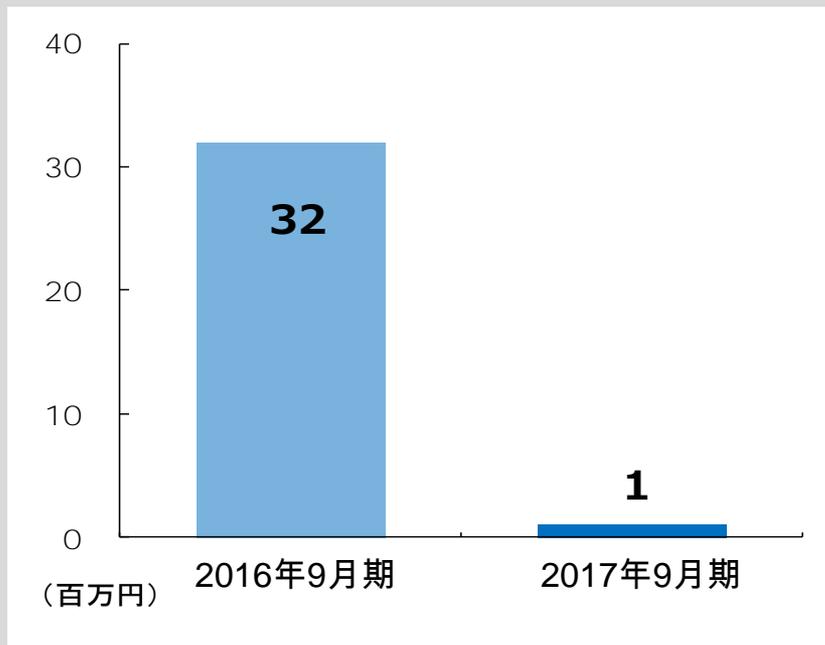
(単位:百万円)	売上総利益	販売費	研究開発費	一般管理費
2016年9月期	840	457	84	672
2017年9月期	794	508	58	690

### 《ポイント》

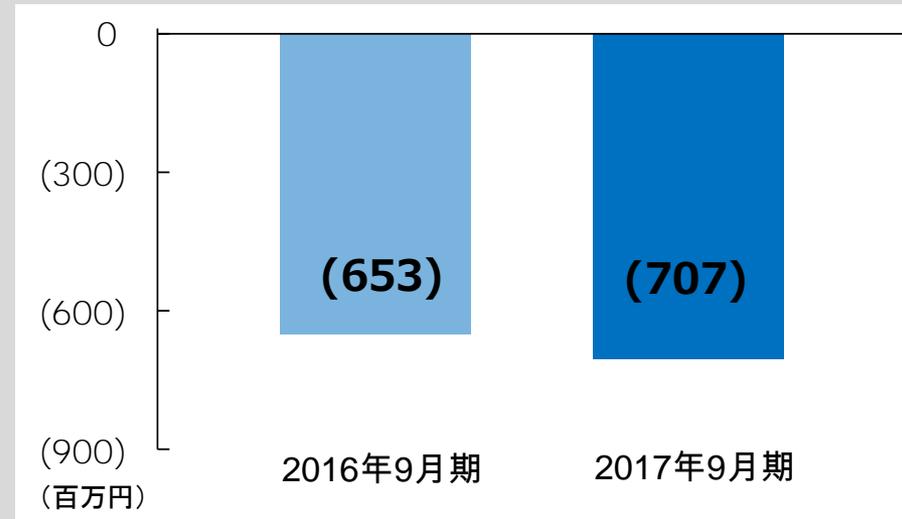
- ✓ 細胞培養加工施設の設置・運営管理業務の受託や細胞加工の技術開発の受託等のバリューチェーン事業の受託案件数は増加したが、免疫細胞療法総合サービスの売上が減少
- ✓ 既存の大型医療機関の治療開始の遅れ等による特定細胞加工物製造に係る売上や予定していた新規の特定細胞加工受託案件がずれ込み等で、売上高は減少
- ✓ セグメント損失は、売上原価は減少したものの、営業強化のための販売費が増加し損失増

# 細胞医療製品事業の売上高・利益

## 売上高



## セグメント利益



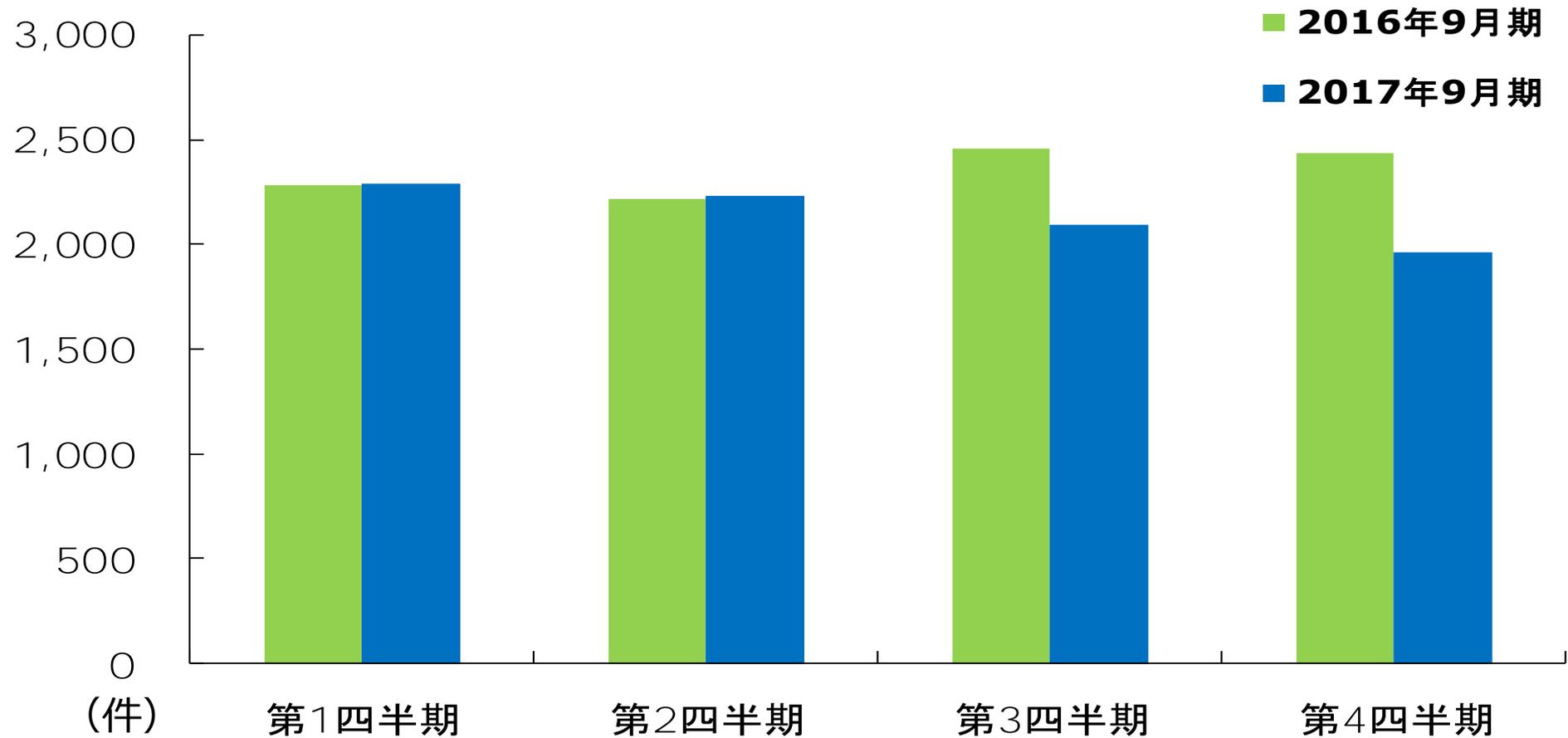
(単位:百万円)	売上総利益	販売費	研究開発費	一般管理費
2016年9月期	20	0	517	156
2017年9月期	(25)	0	554	127

### 《ポイント》

- ✓ 細胞医療製品につながるシーズ探索、技術の改良、知的財産権の確保等による研究開発に注力

# 細胞加工件数

累計 約17万件



# 貸借対照表の概要

《ポイント》

(単位：百万円)	2016年9月期 連結会計期間 (2016年9月30日)	2017年9月期 連結会計期間 (2017年9月30日)	増減額
資産合計	<b>7,646</b>	<b>6,265</b>	(1,380)
流動資産	<b>4,311</b>	<b>4,052</b>	(258)
現金及び預金	2,494	2,536	42
有価証券	1,100	900	(200)
固定資産	<b>3,334</b>	<b>2,212</b>	(1,122)
有形固定資産	<b>1,469</b>	<b>800</b>	(668)
無形固定資産	<b>265</b>	<b>97</b>	(167)
投資その他の資産	<b>1,599</b>	<b>1,314</b>	(285)
負債合計	<b>1,715</b>	<b>785</b>	(929)
流動負債	<b>1,245</b>	<b>387</b>	(858)
固定負債	<b>469</b>	<b>398</b>	(71)
純資産合計	<b>5,931</b>	<b>5,480</b>	(450)
資本金	<b>6,778</b>	<b>6,786</b>	7
資本剰余金	<b>8,191</b>	<b>970</b>	(7,220)
利益剰余金	<b>(9,154)</b>	<b>(2,603)</b>	6,550
負債純資産合計	<b>7,646</b>	<b>6,265</b>	(1,380)

【資産】 総資産は1,380百万円減少

- ・流動資産258百万円減少  
売掛金の減少88百万円  
有価証券の減少200百万円
- ・固定資産は1,122百万円減少  
有形固定資産の減少668百万円  
投資有価証券の増加273百万円  
長期貸付金の減少159百万円  
長期前払費用の減少403百万円

【負債】 負債は929百万円減少

主な理由は、

- ・流動負債は858百万円減少  
短期借入金の減少800百万円
- ・固定負債は71百万円減少  
新株予約権付社債の減少75百万円

【純資産】 純資産は450百万円減少

- ・株主総会決議に基づく繰越利益剰余金の欠損填補の結果、  
資本金963百万円減少  
資本剰余金8,191百万円減少  
利益剰余金9,154百万円増加
- ・第三者割当増資及び新株予約権付社債の新株予約権の行使により、  
資本金と資本剰余金が各々970百万円増加
- ・親会社株主に帰属する当期純損失により  
利益剰余金が2,603百万円減少
- ・その他有価証券評価差額金221百万円増加
- ・新株予約権10百万円減少

自己資本比率 77.0%⇒86.9%

# 目次

## 1. 2017年9月期 トピックス

代表取締役 会長兼社長 木村 佳司

## 2. 2017年9月期 通期業績

取締役 管理本部長 宮本 宗

## **3. 研究開発の状況**

執行役員 研究開発部長 池田 昇司

## 4. 2018年9月期 計画&ビジョン

代表取締役 会長兼社長 木村 佳司

# 臨床試験の進捗

## 医師主導臨床研究 (国内)

2017年9月末現在

### 樹状細胞ワクチン療法 (EP-DC) 開発ステータス

・腎細胞がん(東京大学) 臨床研究 → 継続中

### ガンマ・デルタT細胞療法 開発ステータス

・非小細胞肺がん(東京大学) 臨床研究 → 先進医療B  
 ・進行食道がん(東京大学) 臨床研究 → 継続中  
 ・腹膜播種を伴う胃がん(東京大学) 臨床研究 → 継続中

## 治験 (英国) 【技術導出】

### ImmuniCell® 開発ステータス

・悪性黒色腫、肺がん、腎臓がん (英国 TC BioPharm Ltd.) 第 II b / III 相試験  
 \* 悪性黒色腫、非小細胞肺がん、腎臓がんを対象に、安全性と治療効果の検討目的としたStage 1,2及び3からなるアダプティブ・デザインの臨床試験

## 治験 (米国)

### AGS-003 (Rocapuldencel-T) 開発ステータス

・転移性腎細胞がん (米国 Argos Therapeutics, Inc. ) 第 I / II 試験 → 第 III 相試験

\* 独立モニタリング委員会が中止を勧告 (2017年2月)  
 \* Argos社は試験の継続を決定 (2017年4月)  
 \* FDAが試験継続に合意 (2017年5月) 2018年中頃、目標イベント数に到達見込み

# AGS-003の開発状況 (Argos社)

## 米国で第Ⅲ相試験継続中

### 治験状況

2015年7月

2018年前半

症例登録

データ収集・解析

データ解析  
終了

試験終了

中間の解析データを用いて  
独立データモニタリング委員会  
(IDMC) が評価。中止を勧告  
(2017年2月)

Argos社は、  
試験の継続を決定。  
(2017年4月)  
FDAが、試験継続に合意  
(2017年5月)

2018年前半に  
目標イベント数に  
到達見込み

\* the independent data monitoring committee (IDMC) : 独立データモニタリング委員会

# ImmuniCell®の開発状況 (TC BioPharm社)

## 英国で治験実施中

### 治験状況

2015年12月

2019年7月

**Stage 1 (PI/IIa)**

**Stage 2 (PIIb)**

**Stage 3 (PIII)**

(予定)

\* 悪性黒色腫、非小細胞肺癌、腎臓がんを対象に、安全性および治療効果の検討目的としたStage 1,2及び3からなるアダプティブ・デザインの臨床試験

Stage 1では、スクリーニングの結果5名が治療（4名が6サイクル、1名が5サイクル）を受けた。  
その結果、安全性に問題ないことを確認。  
Stage2へステップに進むことが推奨された。

出典 : Clinicaltrials.gov  
TC BioPharm社提供資料元に作成

# mRNA CAR-Tの開発

## mRNAをエレクトロポレーション法(EP法)により導入した 新たなコンセプトのCAR-T細胞を共同開発中

### 成果①

エレクトロポレーション法を採用し、  
効率的にCARを発現させることに成功

※CAR : Chimeric Antigen Receptor



〈出所〉大阪大学大学院薬学研究科薬剤学分野中川晋作教授資料を  
基に作成

### 成果②

固形がんを対象としたマウスモデルで、  
CARのmRNAを導入したリンパ球が  
VEGFR2分子を認識し、  
腫瘍血管を傷害することで腫瘍縮小

※CAR抗体領域に関する技術は特許申請済  
(特願2016-095125)

VEGFR2を標的



※VEGFR2:Vascular Endothelial  
Growth Factor Receptor 2  
(血管内皮細胞増殖因子受容体)

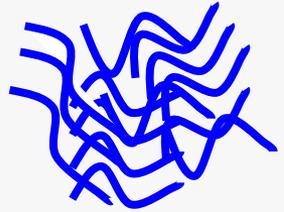
大阪大学大学院薬学研究科 薬剤学分野との共同研究

海外学術誌「Molecular Therapy -Oncolytics」に掲載

# 高感度抗体検出技術“MUSCAT ASSAY”

## がん治療の新規バイオマーカー、診断薬へ

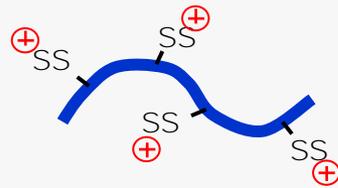
全長がん抗原



不安定で沈殿しやすい

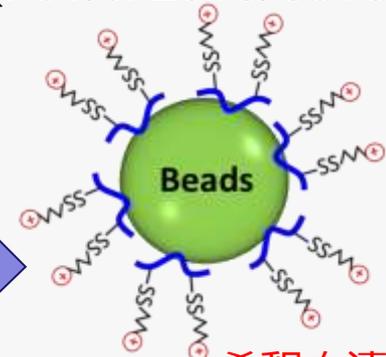
S-カチオン化

高純度・水溶性抗原



Multi-plex対応磁気ビーズ  
(PCT/JP2013/059692)

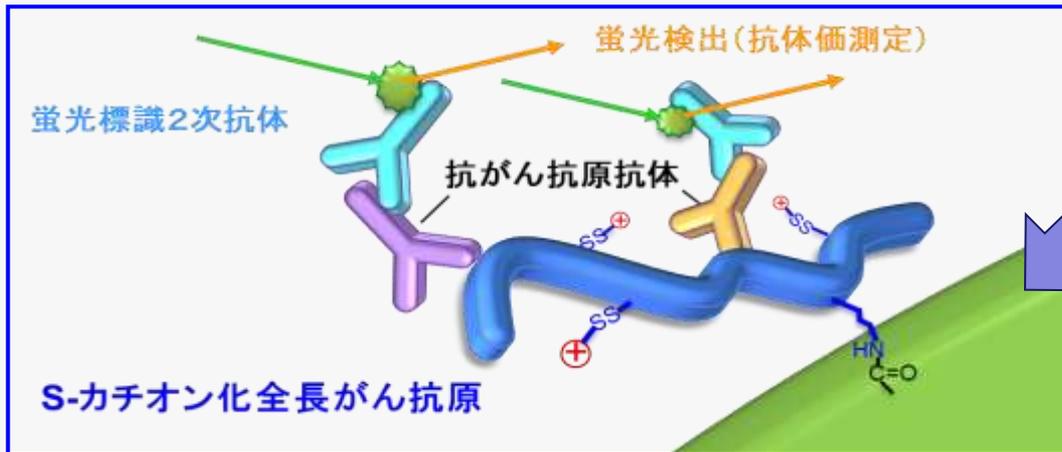
固定化



希釈血清と反応

全長の抗原タンパク質を  
可溶化して、  
検査に用いることが可能

\*Multiple S-CATionized antigen beads  
array ASSAY=MUSCAT ASSAY



HLA非拘束的に検査ができる

岡山大学等との共同研究

中華人民共和国、シンガポール共和国、  
台湾に加え、日本特許が成立

# 最先端がんゲノム医療の実現

- 「**がん**に立ち向かう国民の命（いのち）を守るため、**がんゲノム医療の計画的な推進を実施**」  
（がんゲノム医療フォーラム2016（2016.12.27開催）における総理メッセージ）
- **一人ひとりに最適な最先端のがん治療を、医療保険で受けられるようにする**。解析したゲノム情報や臨床情報を集約・管理・活用する体制を構築し、**革新的な医薬品・治療法等の開発を推進**。

## がん診療の課題と現状

- ①約2人に1人が、がん罹患者
  - 2016年 新たながん罹患数は約100万人の見込み
  - 1981年以降、「がん」が死因の第一位。
- ②がんゲノム情報により分子標的薬の奏効率が大幅に上昇

### ゲフィチニブ（イレッサ®）

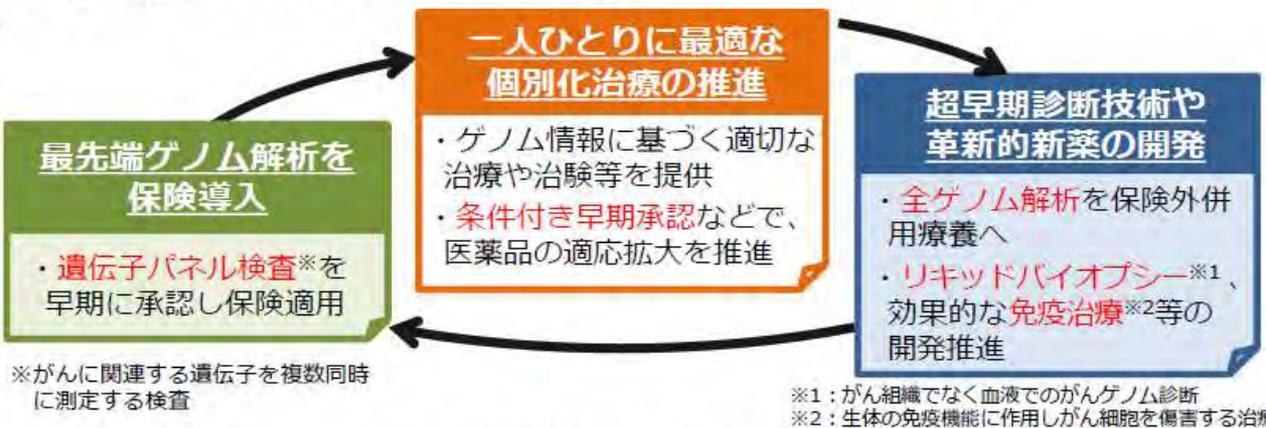
肺腺がんのうち、EGFR※遺伝子変異がある例では奏効率が大幅に上昇。  
→無効例への投与が回避。



※epidermal growth factor receptor: 上皮成長因子受容体

## がんゲノム医療の戦略的推進

- ゲノム医療の果実を国民・患者に還元。



- 全国の医療機関等が参加し「**がんゲノム医療推進コンソーシアム**」を構築。



## ③ゲノム解析技術の急速な進歩

一人の全ゲノム解析に必要な時間・費用

(2003年)	(2016年)
13年間・30億ドル	1週間・約1000ドル

# ネオアンチゲンを標的とした樹状細胞ワクチン開発



手術による腫瘍組織の採取



腫瘍組織の遺伝子解析

ネオアンチゲンの特定  
ネオアンチゲンの合成



アフェレーシスによる  
細胞の採取



樹状細胞ワクチンの調製



ネオアンチゲン  
樹状細胞ワクチンの投与

東京大学医学部附属病院 免疫細胞治療学講座等との共同研究

## がん個別化医療を加速

# 国際ジャーナル「Oncoimmunology」に 研究成果を発表

論文タイトル

Dendritic cell vaccine induces antigen-specific CD8+ T cells that are metabolically distinct from those of peptide vaccine and is well-combined with PD-1 checkpoint blockade

樹状細胞ワクチン（DCワクチン）とペプチドワクチンの効果を比較  
（マウスモデル）

- DCワクチンが、ペプチドワクチンよりも、より高い抗腫瘍効果がある
- DCワクチンと免疫チェックポイント阻害剤との併用は腫瘍組織をより効果的に縮小



ネオアンチゲン樹状細胞ワクチンの臨床効果を示唆



# 2018年9月期 計画& 経営ビジョン

代表取締役 会長兼社長 木村 佳司

# 2018年9月期 通期業績予想

(単位：百万円)

	2017年9月期 通期業績 (実績) (A)	2018年9月期 通期業績予想 (B)	前期比	
			増減額 (B) - (A)	増減率
売上高	1,704	1,970	266	15.6%
売上総利益	769	520	(249)	-32.4%
販売費及び 一般管理費	2,570	1,920	(650)	-25.3%
営業利益	(1,801)	(1,400)	401	—
経常利益	(1,745)	(1,384)	361	—
親会社株主に 帰属する 当期純利益	(2,603)	(1,395)	1,208	—

\* 連結業績予想は、2017年11月10日に公表

# 2018年9月期 セグメント別通期業績予想

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	連結予想額 (注)2
	細胞加工業	細胞医療製品 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	<b>1,970</b>	<b>0</b>	<b>1,970</b>	—	<b>1,970</b>
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	<b>1,970</b>	<b>0</b>	<b>1,970</b>	—	<b>1,970</b>
セグメント損失	<b>(260)</b>	<b>(560)</b>	<b>(820)</b>	<b>(580)</b>	<b>(1,400)</b>

(注) 1. セグメント損失の調整額は、全社費用であります。

全社費用は、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント損失は、連結業績予想の営業損失と調整を行っております。

# 中長期経営計画

再生・細胞医療分野における  
国内外の急激な環境変化に迅速対応すべく、  
毎年ローリング方式で中長期経営計画を策定

基本戦略や主な取り組みについては大きな変更はなし

(策定)

2017.9

中長期経営計画 (2017年9月期スタート)

2016.9

中長期経営計画 (2016年9月期スタート)

2017年9月期 2018年9月期 2019年9月期 2020年9月期 2021年9月期 2022年9月期

# 基本戦略

細胞加工受託売上の拡大

バリューチェーン事業の強化

CDMO事業の強化

細胞医療製品の製造販売承認取得

2017年9月期  
連結売上高 約17億円

2022年9月期  
連結売上高 約35.5億円【E】

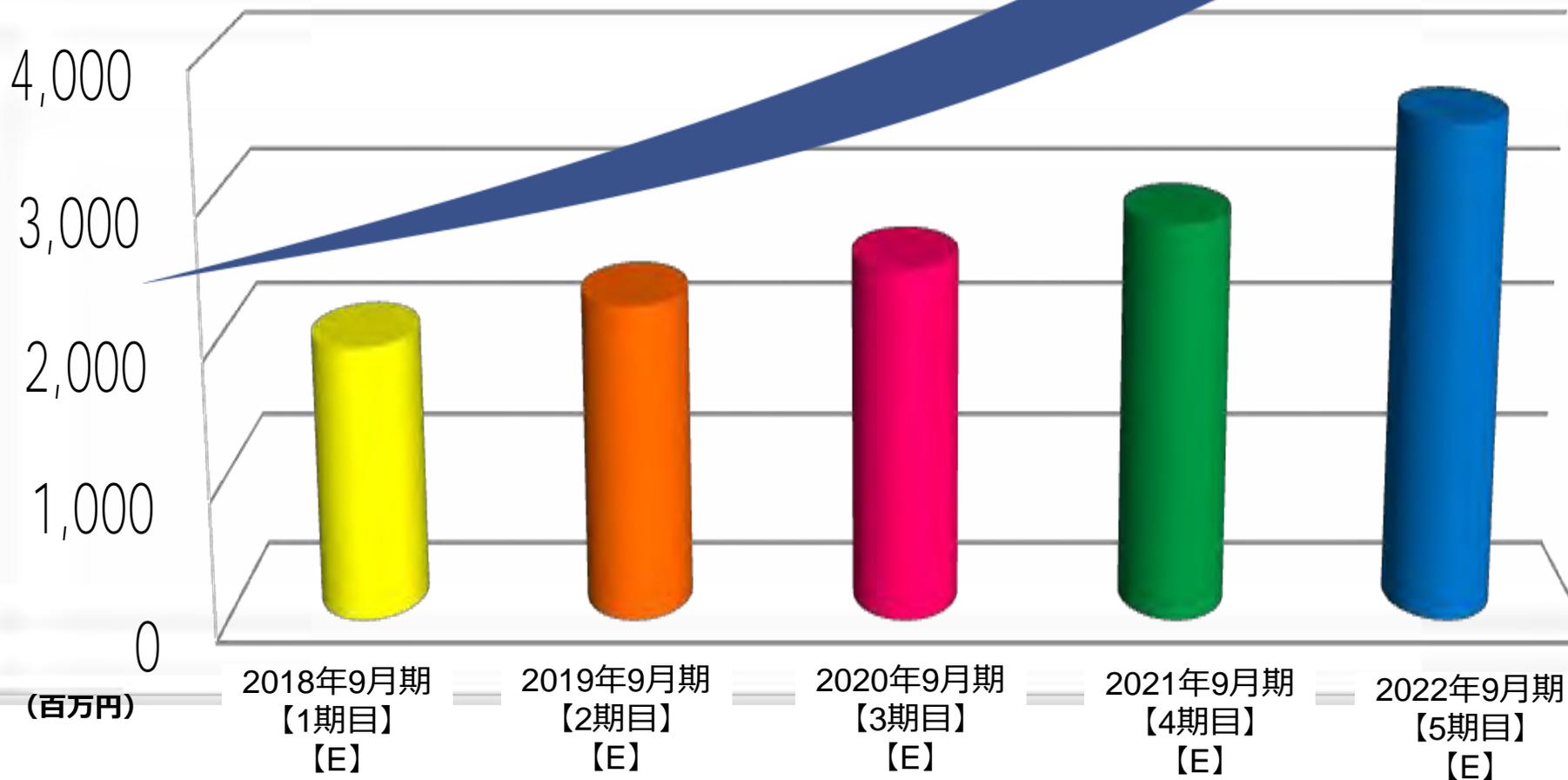
新規ビジネス



細胞加工業、  
バリューチェーン事業、  
CDMO事業、  
細胞医療製品事業

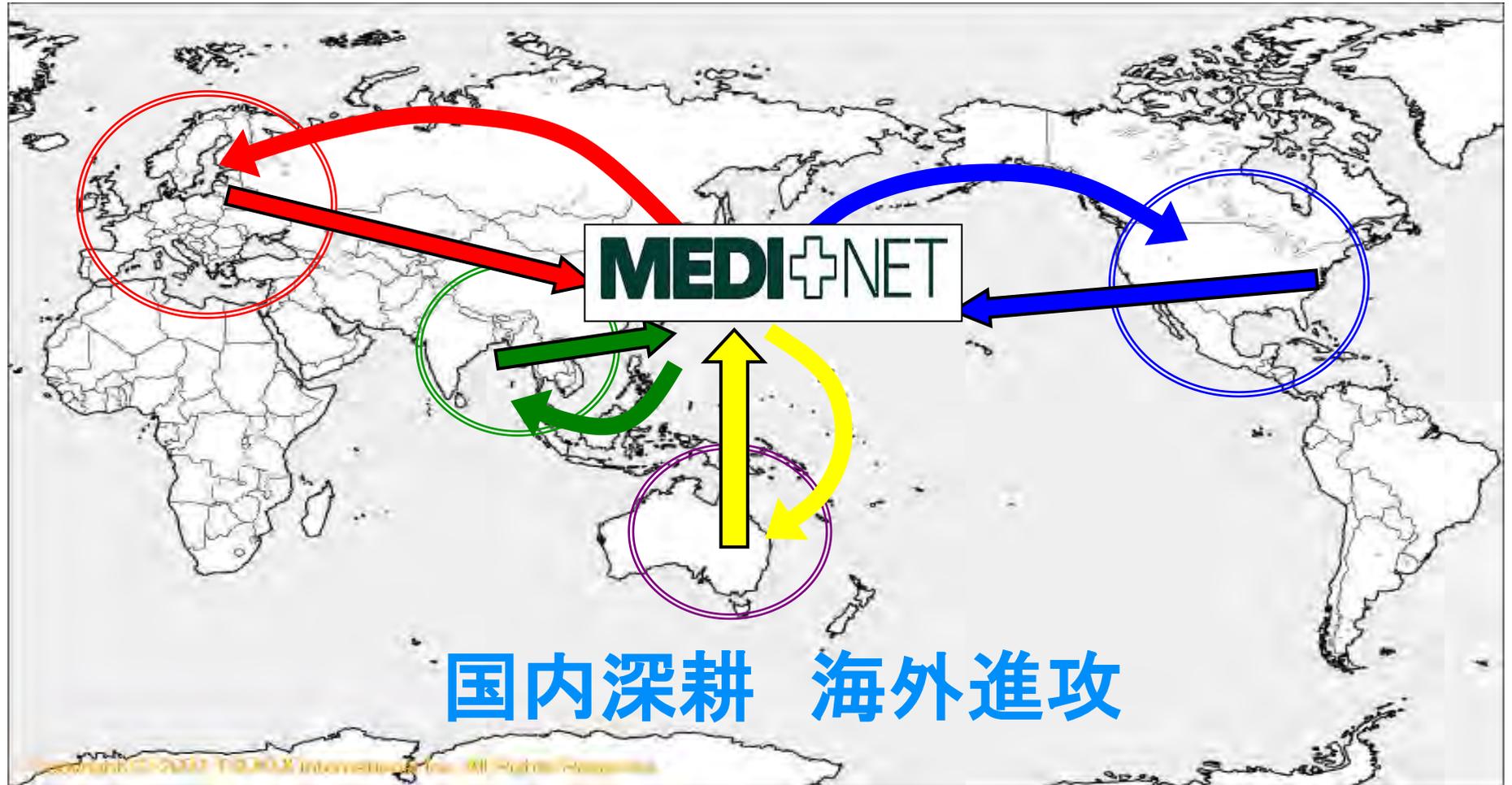
# 経営計画(2018年9月期スタート)

## 【売上高の推移】



**事業領域拡大による売上拡大**

# 再生・細胞医療のグローバル・リーディングカンパニーへ



## Think Global, Act Local

ご清聴ありがとうございました

(補足資料)

# 事業セグメント(2017年9月期)

## 細胞加工業

### 免疫細胞療法総合支援サービス

### 細胞加工業

特定細胞加工物の製造受託など

### CDMO事業

再生医療等製品/治験製品の製造受託など

### バリューチェーン事業

CPCの施設運営管理受託  
再生医療関連のコンサルティングなど

## 細胞医療製品事業

### 細胞医療製品事業

細胞医療製品（再生医療等製品）の  
開発・製造・販売

2017年10月2日付で当社CPCが特定細胞加工物製造許可を取得したことに伴い、細胞加工業にありました「免疫細胞療法総合支援サービス」は2017年10月1日をもって提供終了。2017年10月2日以降は、細胞加工業の中にある「細胞加工業」売上として計上しています。

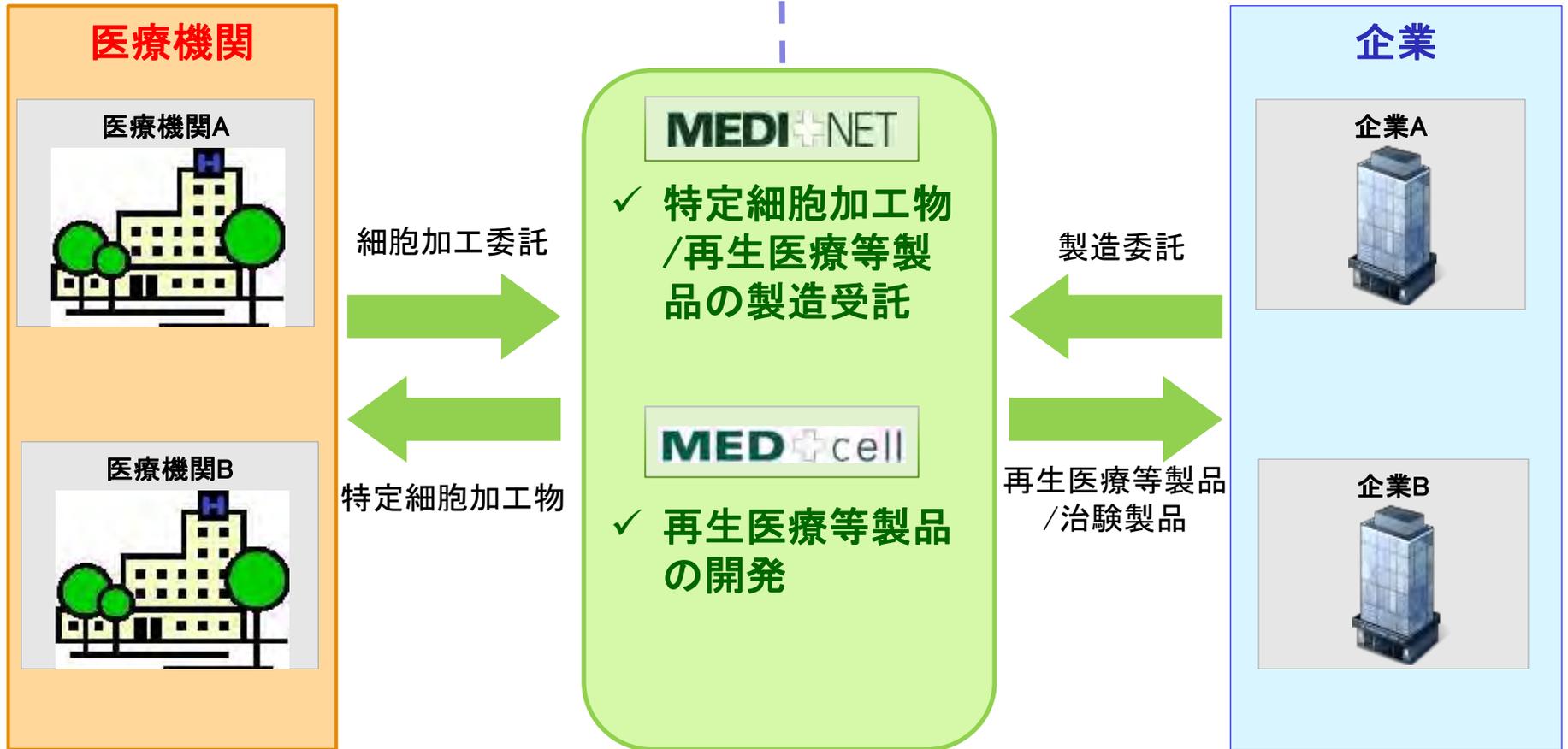
# 細胞加工業(ビジネスモデル)

## 細胞加工業

「再生医療等安全性確保法」

## CDMO事業

「医薬品医療機器等法」



# 主な事業拠点

特定細胞加工物製造許可  
取得（2017年10月）

大阪細胞培養加工施設

特定細胞加工物製造許可  
取得（2015年5月）

品川細胞培養加工施設

特定細胞加工物製造許可  
取得（2017年10月）

新横浜細胞培養加工施設



特定細胞加工物、  
再生医療等製品/治験製品を製造受託

# バリューチェーン事業



## ビジネス機会

- ・ 再生・細胞医療の開発  
コンサルティング
- ・ 培養技術者の派遣・教育
- ・ SOP等の文書管理などの支援
- ・ CPCの施設設計
- ・ CPCの運営管理
- ・ 技術移転
- ・ プロセス開発
- ・ 資材や機材の提供
- ・ 保存・凍結技術
- ・ 輸送管理 など

# 研究開発費、設備投資、減価償却費等の推移

(百万円)

	2013年9月期	2014年9月期	2015年9月期	2016年9月期	2017年9月期
研究開発費	518	659	645	603	612
総売上高に対する研究開発費の割合(%)	24.6	35.8	38.5	31.6	35.9
研究部門スタッフ数(人)	29	31	34	27	23
設備投資	162	638	1,097	71	40
設備投資のうちのリース資産	41	35	171	21	30
減価償却費	211	195	278	356	320
従業員数(人)	162	169	180	170	156
細胞加工業	—	115	130	127	106
細胞医療製品事業	—	31	22	23	25
全社(共通)	—	18	28	20	25

\* 設備投資は、有形固定資産のほか、無形固定資産のうちソフトウェアを含めています。

\* 2013年9月期までは単一事業であるため、セグメント別の従業員数の記載はしていません。

この資料は、投資者に対する情報提供を目的として将来の事業計画等を記載したものであって、投資勧誘を目的としたものではありません。当社の事業計画に対する評価及び投資に関する決定は、投資者ご自身の判断において行われますようお願いいたします。

この資料に記載されている当社の現在の計画、見通し、戦略、確信等のうち歴史的事実でないものは、将来の事業に関する見通しであり、これらは、現在入手可能な情報から得られた当社の経営陣の現時点における判断に基づいており、顕在化・潜在的なリスクや不確実性が含まれております。従いまして、これらの見通しに全面的に依拠することは控えるようお願い致します。

細心の注意を払っておりますが、掲載された情報の誤りやデータのダウンロードなどによって生じた障害などに関し、事由の如何を問わず、一切責任を負うものではないことを予めご承知おき下さい。